

20周年を迎えた 油谷こどもミュージカル

平成14年に発足した油谷こどもミュージカルが20周年を迎えました。地域の文化的な受け皿となり、地域の人と歩んできた20年の足跡を振り返ります。

油谷こどもミュージカルは、地域のひとともに文化事業を作り上げることや過疎地域の子どもたちに一流の人との出会いの場を提供することで、子どもたちの可能性や創造性を伸ばすこ

と、ラポールゆやから地域に共通した話題を発信することを目指し、これまで活動してきました。

下関市民ミュージカルの会代表の伊藤寿真さんの指導・演出のもと、これまで数多くの子どもたちが参加し、地域にミュージカル文化を根付かせてきました。ラポールゆやでの定期公演にとどまらず、海峡メッセ下関や山口情報芸術センターでも公演を行いました。油谷こどもミュージカル出身で、日本の第一線で活躍するミュージカル劇団員もいます。

現在は、市内の小学5年生から高校3年生までの28名が活動しています。保護者やボランティア、衣装、舞台装置の制作・転換など側面から子どもたちを支え、公演をサポートするなど地域の人が子どもたちと一緒に舞台を作り上げてきたことも特徴のひとつです。



▲平成15年に油谷町こどもミュージカルとして初公演

子どもたちは自分の思いを 燃やせる場を求めています

燃やせる場を求めています

ここまで続けてこられたのは、子どもたちのやりたいという気持ちに周りの大人が引き込まれたからだと思えます。毎年、やり方を工夫して作品を作り上げ、気が付いたら20年という感じます。油谷こどもミュージカルへの入団にオーディションはありません。歌いたい、踊りたいと思うすべての子どもたちの受け皿になり、心を燃やせる場所となっています。

うれしい、辛いといった自分の思いを正しく人に伝えることは難しいことです。子どもたちには、気持ちを表に出して、はっきり口に出して伝えることを舞台を通して身につけてほしいと思います。



脚本・演出 伊藤寿真さん
ミュージカルを4シーズン連続で演出。下関市民ミュージカル代表を務める。油谷こどもミュージカル第1作の脚本・演出を担当。

何事にも逃げずに向き合う大切さを 気づかせてくれました

気づかせてくれました

姉が出演した第1回公演を見に行ったときに、こんな世界があるんだと衝撃を受けました。まさか20年も続くと思っていまらなかったが、先輩から熱く伝統が引き継がれ、レベルが上がってきていてうれしく思います。みんなの憧れや目標のようになっていて素敵なことだと感じます。

油谷こどもミュージカルに出会ってなかったら劇団四季に入ることはありませんでしたし、人生を変えてくれたと思っています。自分に誇りが持てたこと、自信が生まれ、どんな大きなことに挑戦するときも自分を信じる力が身についたということが何よりも大きいと思います。



第2期生 村田晃一さん
卒業後、劇団四季に入団。現在は俳優やアーティストとして活躍中。

卒団生にとって、油谷こどもミュージカルは帰ってくる場所になっています。自分たちが身につけたことを後輩に伝えたり、公演のサポートを行ったりすることで、地域に根付いた文化は、確実に次世代に引き継がれています。

2002 第1回公演
「サンタの残した忘れ物」

2003 第2回公演
「見習い魔女マジヨリカ」

2004 第3回公演
「明日へ 私の青い鳥」

2005 第4回公演
「桃や姫物語」

2006 第5回公演
「鏡の中のあなた」

2007 第6回公演
「オズの魔法使い」

2008 第7回公演
「Zoo～僕たちの反乱～」

2009 第8回公演
「南蛮人と子どもたち」

2010 第9回公演
「ふたりの蛍子の物語」

2011 第10回公演
「遥かなる GOKU 伝説」

2012 第11回公演
「不思議な夜がやって来た」

2013 第12回公演
「桃や姫物語」

2014 第13回公演
「二人をつなぐペンダント」

2015 第14回公演
「夢の続きは、夢の中」

2016 第15回公演
「オズの魔法使い」

2017 第16回公演
「心の翼広げて」

2018 第17回公演
「サンタクローンは生きている」

2019 第18回公演
「見習い魔女マジヨリカ」

2020 第19回公演
「明日へ」

2021 20周年記念公演
「天の子と妖怪たち」



12月12日(日)、ラポールゆやで20周年記念公演が行われました。団員はコロナ禍の中でも練習を続け、歩みを止めずに努力してきた成果を舞台上で披露しました。

